

令和7年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立三室小学校)

学校番号 007

【様式】

学 校 教 育 目 標	自ら学び 心豊かに たくましく生きる 児童の育成
目 指 す 学 校 像	子どもたちが「思い描く幸せ」の実現を目指し、教職員、保護者、地域の Well-being を実現する学校

重 点 目 標	1 学ぶ楽しさが実感できる「本気で学ぶ」授業を創造する 2 児童一人ひとりのよさを生かし、「自己実現を図る力」をはぐくむ 3 「喜んで出勤、満足して退勤」する教職員、学校づくりを強力に推進する 4 「地域とともにある学校づくり」を推進し、未来社会を切り拓く
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価				
		年 度 目 標				年 度 評 価		実施日令和 年 月 日		
		番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に 関する取組	心 の サ ポ ー ト に 関 す る 取 組	1	●子どもを主語にした教育活動の展開 ・本校の子どもたちの学習の様子からは、与えられた課題について非常に熱心に取り組むことができるが、その一方、自ら問いをたて試行錯誤しながら解決していくという面では課題が見られる。 ・従来の「教師が教える」スタイルから「子どもが自ら学ぶ」スタイルに、教職員のマインドセットを切り替えていくが必要である。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力・学習意欲に関して個人差が大きいことから、ＩＣＴを有効に活用しながら、個に応じた指導・支援を行っていく。	・子どもを主語にした「本気の学び」の実現	①各学級において、「問い」を大切にし、主体的に学びに向かう学習活動を展開する。 ②子どもたちが自らの学びを、日常生活や将来に生かすことのできる授業を創造する。	・一人ひとりの教職員が年間１回以上の授業公開に主体的に取り組み、授業改善の意識を高めることができたか。 ・振り返りの場面において、子どもたちが自らの学びを日常生活や将来につなげる記述が見られたか。				
				・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	①教職員の主体的な学びの実現に向け、週１回の研修時間を確保し、学校課題研究を軸にボトムアップでの研修を強力に推進する。 ②デジタルの力でリアルな学びを支えるために、ＩＣＴの効果的な活用を図る。	・研修アンケート（教職員）にける研修満足度に係る肯定的な回答が増加しているか。 ・学びの指標の「自分の考えを表現したり共有したりする時に、学習ソフトを使っている」の肯定的回答の割合が増加しているか。				
子どもの発達やサポートに関する取組	地域とともにある 学校づくりに関する取組	2	●「喜んで登校し満足して下校」できる学級・学校の実現 ・教職員は一人ひとりの子どもたちに真摯に向き合い、個に応じた指導・支援を行っている。 ・昨年度、長期欠席の児童が非常に多く見られた。また、欠席の事由が「病欠」となっているも、その背景を探ると様々な理由が複合的に関連しているケースも多い。専門職の活用及び外部機関との連携、子どもたちのレジリエンスをはぐむ活動の充実が急務の課題である。 ・学校が子どもたちを「ひきつける」努力に加えて、家庭が子どもたちを「送り出す」取組も重要である。	・一人ひとりに寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①スクールダッシュボードの活用、校内委員会の実施により児童の状況を的確に把握し迅速に対応する。 ②Solaを一むやオンラインによる学習など、児童の状況に応じた効果的な学びの場を設定する。	・学校評価（児童）における満足度に係る項目の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・Solaを一むの運用体制を確立し、状況に応じた多様な学びの場を設定することができたか。				
				・長期欠席児童への早期対応及び外部機関との連携強化	①専門職、外部機関との連携を密にし、学校だけでなく関係諸機関とつながりながら対応を行う。 ②専門委員会に不登校に係る取組を検討する時間を特設し、子どもたちのレジリエンスをはぐむための活動について検討する。	・教育相談日や面談等の機会を通して、関係機関と家庭とのつながりを築くことができたか。 ・専門委員会で検討した子どもたちのレジリエンスをはぐむための活動について、実際の教育活動の中で実行することができたか。				
教育環境の整備に関する取組	教職員のキャリア形成に関する取組	3	●学校運営協議会、PTAと一枚岩となった学校経営の実現 ・学校安心メールや文書配信用のアプリケーションなどを活用して、家庭や地域に向けての情報発信を積極的に行うことができている。 ・学校・家庭・地域とが一枚岩となって子どもたちの教育活動を展開できるように、目指す学校像について「喜んで登校、満足して下校」というキャッチフレーズを設定した。 ・地域の強力なバックアップを基に、「地域とともにある学校づくり」に向けて、地域の人材、物的資源を有効に活用する必要がある。	・地域や関係諸機関との連携した教育活動の実施	①家庭、地域に向けて、的確で迅速な安心メールの配信やWE Bページの更新による情報発信を行う。 ②地域行事に積極的に参加し、家庭・地域と顔の見える関係を構築する。	・学校評価における「学校は家庭との連絡・連携を適切に行っているか」の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・家庭、地域、関係園の職員等と顔の見える関係が構築できたか。				
				・「郷土に対する誇りと愛情」をはぐくむ教育の推進	①地域の人材、物的資源を有効に活用した教育活動を展開する。 ②学校運営協議会に児童も参加することで、自分たちの住む地域をみずからよくしていくという社会参画意識を醸成する。	・各学年において、地域人材や専門家をゲストティーチャーに招いた教育活動が実施されたか。 ・学校運営協議会に１回以上児童が参加することで、社会参画の意識が高まったか。				
		4	●安全、清潔、静謐な教育環境の創出 ・廊下や教室内に物が多く置かれている状態については、昨年度から大幅に改善が図られ、子どもたちが落ち着いて学習に取り組むことができる環境に近づいた。 ・清掃活動について、「何のために行うのか」という意義を踏まえて、清掃部を中心にこれまでの取り組み方を見直し新しい清掃活動を考えることができた。今後、見直した新しい清掃活動の定着を図ることが課題である。	・安全・安心で落ち着いた教育環境整備の実現	①整備された空間を維持するための新しい清掃活動の在り方を見直し、定着を図る。 ②教育環境の整備と教材の充実のために、全職員による備品の点検・整理を行う。	・学校評価（保護者）における「学習環境を整え美しい環境づくりに取り組んでいる」の肯定的回答の割合が増加しているか。 ・備品の点検・整備作業を通して、環境が整備された状況を実現できたか。				
				・「数字」を通じた教育活動の成果についての点検実施	①感覚ではなく、「数字」を通して教育活動の成果を点検する意識を醸成する。	・教職員の「数字」を通じた教育活動の成果の点検の意識が高まったか。				
		5	●「喜んで出勤し、満足して退勤」する教職員組織の確立 ・昨年度の教職員の意識調査において、仕事に対してやりがいを感じている教職員が１００％という結果が得られた。その一方、時間外在校時間が４５時間を超える教職員も多く見られた。 ・今後は、「働き甲斐」と「働きやすさ」の両面から、学校の様々な教育活動をその本質を捉えながら見直していく必要がある。 ・新採用教職員が４名着任するなど、職員の平均年齢が徐々に下がってきている。その中で、一人ひとりの教職員の資質・能力の向上を図ることは急務の課題である。	・本質を踏まえて行動し、自走する組織の構築	①「本質を踏まえた教育活動となっているか」という視点で、教育実践や業務遂行計画を見直す。 ②「働きやすさ」と「働き甲斐」をセットにした働き方改革を推進する。	・学校行事等について、単純に前年踏襲するのではなく、本質を踏まえた見直し・改善が図られているか。 ・教職員調査の「働き甲斐」に関する肯定的な回答の割合が増加したか。				
				・「人を育てる」学校経営の推進	①運営委員を要とした組織的教育活動を展開し、ミドルリーダーを育成する。 ②教職員の専門性向上に向け、指導者を招聘した研修会を実施する。 ③一人ひとりの「やるべきこと」と「やりたいこと」を明らかにし、教職員の主体的な学びを力強く推進する。	・年間を通して、新たなミドルリーダーを育成することができたか。 ・指導者を招いた授業研究会、研修会を年間５回以上実施し、教職員の資質の向上を図ることができたか。 ・教職員が、主体的に学ぶことができたか。				

